

2026 在宅看護の対象

グループワーク



グループワークを行います

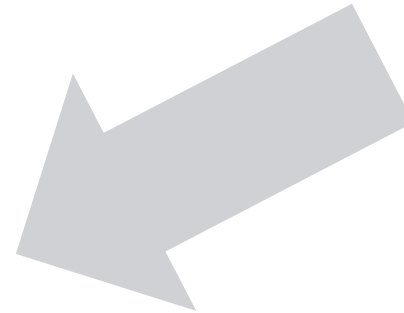
グループを
分けます



事例を
読みます



グループ内で
司会、書記、発
表の役割を決
め話し合いをし
ます



発表

事例紹介

Aさん： 85歳 女性
現病歴： パーキンソン病

訪問看護が入るいきさつ：もともと独居の方。数年前に夫は他界。

四肢の拘縮が進み日常生活が困難になってきたため長女と同居するようになった。長女の家は県外にあるが、介護のために長女だけ茨城の実家に戻ってきた。通院が困難なため、ケアマネージャーより訪問診療と訪問看護の依頼があった。

現在はパーキンソン病治療薬、鎮痛剤、下剤が処方されている。
最近やせが目立ち、仙骨部と左耳の裏に褥瘡ができています。
依存的な性格。話好き。

サービス： 訪問診療：1回/週 訪問看護：1回/週

福祉用具：介護用ベッド、手すり

介護度：要介護4 日常生活自立度：寝たきり度：C2 認知症の状況：Ⅲ-a

症状： 四肢の拘縮、痛みがある。便秘傾向。表情が乏しい。

ADL： ベッド上寝たきり。移動は全介助。

排泄： オムツ失禁。

食事： 端座位で自力摂取可。かなり時間がかかる。

休息： 昼夜逆転傾向。

清潔： 全介助。清拭。

介護状況： 長女の他に介護を替われる人はいない。

長女は心臓に持病があり内服治療中。

車の運転はできない。Aさんは昼夜を問わず長女を呼ぶため、
介護疲れがある。

在宅療養に対する利用者・家族の気持ち

Aさん: いろいろなところが痛い。
つらくて長女の名前を呼んでしまうの。もう少し自分で
動けたらいいのに。
施設には入りたくない。

長女: 毎日疲れます。でも私しか看る人がいない。
施設に入りたくないという母の気持ちは尊重したい。

グループワークの内容

事例を読み、Aさんと家族にとってどのような支援が必要か、訪問看護師の視点で考えてみましょう。



発表内容

1. 考えられる問題点
2. 必要な看護援助内容
3. 看護サービス以外に必要な社会資源の種類

司会進行、書記、発表者 それぞれ役割を決めて下さい。

発表方法は模造紙使用

1グループ 約5分

1. 全員の意見を平等に引き出す

2. 理解を助ける

意見を整理しながらすすめる(文章・図など)

3. 軌道を修正する

4. 結論を促す

タイムキーパー

時間配分に気を付ける

